

第四章

宗教・国境を越え
平和交流と貢献

宗教・国境を越え 平和交流と貢献



長崎県宗教者懇話会 の趣旨

本会は長崎県内の宗教者を以って構成し、会員の親睦、並びに各宗教間の連絡調整を図り、宗教交流と平和運動への連帯を計ることを目的として設立されました。主な事業として、下の5つを行っております。

(1) 原爆殉難者慰霊8・8の主催 / (2) 8・9慰霊奉賛会への協力 / (3) 会員相互の交流・研鑽を計る定例懇話会の開催 / (4) 文化講演会、その他、必要な事項に関すること / (5) 同趣旨で活動している他の宗教平和活動団体との交流(例:世界宗教者平和会議(WCRP)、世界連邦日本宗教委員会、比叡山宗教サミット「平和の祈りの集い」、広島・長崎両被爆都市宗教者による平和会議、海外ではトルコ・イスラームとの交流など)

いま、壁を超えて

長崎は特異な文化的土壌の上に様々な文化が織り成されています。それを和華蘭文化と呼ぶ人もいます。それは開港の歴史、そしてキリスト教の布教とそれに続く弾圧と潜伏、またその間に見られた諸宗教との様々な融合など、稀有な歴史を刻んでいることは良く知られています。

いま、長崎では互いの壁を超えた宗教者の交流が進んでいて、その機能は未来世界への縮図とも言えるような可能性を秘めているように思われます。この相互理解はどのようにして生まれてきたものなのか、また紛争の多い世界の真っ只中にある私達に大切なメッセージが含まれているに違いありません……。

世界の宗教界に見られるトレンド

今日、グローバルにも地域的にも多様な文化・思想・信仰などに生きる者が共存できる道を探ることが緊急の課題となっています。

そこで宗教の世界にも「宗教多元主義」が語られはじめています。これは自教の唯一絶対主義を克服して、少なくとも真実を語っているとみられる宗教は、唯一の神的実在に対する各々の経験・応答を示しているのだとして、相互の対話を深めようとするものです。まったく排他的な自宗絶対主義は今後の社会にとっては克服されるべきとされ、自宗を中心・最高と見なしながらも、同時に他宗教・宗派を包摂していこうとするものです。

目指そうとするもの

マスコミも自治体も触れようとしない大事なテーマである「宗教」「宗教観」、私達は敢えてそれに正面から取り組むことに勇気を奮ってみたいと思います。

／ 諸宗教(対話)運動とは ／

ほかの違った宗教となかよくなるよう
尊敬し、協力し、共に祈って
人々の幸せと世界の平和に貢献しよう。

「諸宗教(対話)委員会」はこの運動を
推進するために活動しています。

[カトリック長崎大司教区諸宗教委員会提唱]

WCRP japan

世界宗教者平和会議(日本委員会)



▶ 諸外国の代表と握手を交わす WCRP 日本委員会会長の庭野日鏡立正佼成会会長

▲ 第8回 WCRP 世界大会報告平和集会での参加者 (東京会場)
 右上の写真は、青森会場でのディスカッションの様子。集会は長崎でも行われた。

WCRP とは

(世界宗教者平和会議 [WCRP JAPAN] 紹介のしおり より抜粋)

【WCRP とは】 世界宗教者平和会議 (WCRP/Religions for Peace) は 1970 年に発足した国際 NGO です。国連経済社会理事会に属し、1999 年に総合協議資格を取得。世界 90 カ国以上にわたる国際諸宗教ネットワークとして諸宗教間の対話・協力を通じた紛争和解や平和教育などの平和構築活動を行っています。WCRP 日本委員会は、1972 年に日本宗教連盟の国際問題委員会を母体として発足し、その一員として活動しています。

【目 的】 WCRP に参加する世界の宗教は、それぞれ教えも伝統も異なりますが、人びとの幸せと世界の平和を願う気持ちは共通のものです。WCRP では、世界の人びとが民族や伝統、考え方などの違いを認め合い、尊重しながら、平和に人間らしく生きていける社会をめざしています。WCRP は、諸宗教間の対話により相互理解を深めるとともに、諸宗教の叢智を結集し、平和を志すさまざまな分野の人びとと協力しながら、平和を脅かす課題の解決に取り組みます。

※ WCRP は例年 8 月 8 日長崎県宗教者懇話会主催の長崎原爆被爆者慰霊式典には多数の代表者らが参加され慰霊のこぼをいただき共に祈りを捧げてくださる。また WCRP 企画による宗教者平和研修会や各種事業への参加招待を頂くなど長崎県宗教者懇話会との友好団体であり、学びや活動の上でも多くの示唆をいただいている。

世界連邦運動の沿革

世界連邦運動は、「この地球は人類全体の共生の場である」という共通認識に基づき、すべての国が核兵器を含む軍備と交戦権を放棄することにより世界法のもとで、その平和と安全を保障し、基本的人権を尊重して、人類を環境破壊と貧困疾病から解放しようというグローバルな「対話と協調」の精神により恒久平和の実現を願う NGO（国連非政府組織）によって推進されています。国連憲章は第二次世界大戦の終結にむかって連合軍により起草され、ヒロシマ・ナガサキの原爆投下以前に合意されたものであり、核の脅威という人類絶滅のエピローグは関知されないままに発意されています。そのため、いち早く原爆の製

造に関わったアインシュタイン博士等の世界的科学者をはじめ著名な有識者による、国連に代わる世界連邦構想がアピールされ、わが国においても昭和 23（1948）年憲政の神様と称される尾崎行雄氏、キリスト教の長老であった賀川豊彦牧師によって世界連邦建設同盟（現在の世界連邦運動協会）が発足しました。従って、現在の国連の実情はそれぞれ加盟国の主権国家体制によって運営されるという限界があり、その平和と安全は PKO（国連平和維持活動）にすべてが委ねられていますが、最終的には軍事的強制措置が執行され「平和のために戦争に訴える」という終わりなき矛盾をはらんでいることは自明のことです。そして今日、国連強化策の一環として、わが国の安保理常任理事国への加入が懸案とされ、わが国の憲法との整合性が求められていますが、その加入にあたっては、国連憲章の敵国条項の削除等、抜本的改正とともに、世界連邦の理念と構想を国民的合意を得て提起することが何よりも緊要であろうと考えます。

世界連邦日本宗教委員会のあゆみ

世界連邦日本宗教委員会は、昭和 38（1963）年に発せられたローマ教皇パウロ 6 世による第二バチカン公会議の「信教の自由」に関する回勅にこたえて、昭和 42（1967）年当時の臨済宗円覚寺派管長朝比奈宗源老師を中心に、神道、仏教、キリスト教、教派神道、新宗教の代表によるわが国の超宗派の平和運動組織として発足しました。それは、わが国が、唯一の原爆被爆国であり、原爆がもたらす地球環境と人類破滅の警告を日本宗教者の責務として全人類に告知するという使命であります。思うに世界の平和運動は、政治、経済、宗教、文化等さまざまな分野において展開されていますが、われわれは毅然として宗教者の立場を堅持し、世界の諸宗教者の精神的、倫理的な奉仕活動として推進しています。発足以来、わが国の主要都市教団において世界連邦平和促進全国宗教者大会を年次開催し、さらに国際的連帯の絆を求めて「世界平和の祈り、の共同拝礼を開催、また世界の諸教団に宗教平和使節団を派遣して、諸民族間の和解と全人類の共生を訴え「世界はひとつ、の旗の下、新しい世界秩序を構築するために、一步一步着実な歩みを進めています。

（第 34 回世界連邦平和促進「全国宗教者・信仰鎌倉大会」パンフレットより抜粋）



▲第 35 回世界連邦平和促進全国宗教者・信仰者東京大会
（中外日報 平成 26（2014）年 1 月 1 日）より

世界連邦日本宗教委員会と 長崎県宗教者懇話会

世界連邦日本宗教委員会は、年間のメイン行事として国内の宗教的なかかわりの深い地域・場所で世界連邦平和促進宗教者・信奉者全国大会をこれまでに32回にわたって開催している。その中で、昭和49(1974)年10月29日、第6回大会を大浦天主堂・浦上天主堂などを会場として開催し、さらに平成15(2003)年11月25、26日には第25回大会を浦上天主堂、カトリックセンターを会場とし、いずれも2泊3日の大会を実施した。

これらの大会に長崎県宗教者懇話会は現地実行委員会を組織し、その運営を全面協力した。実は第6回大会の実行委員の中心的役割を果たした長崎の宗教者たちは、この大会の奉仕をきっかけに地元長崎に宗教者連帯として、大会直後の1974年11月1日に、それまでの「長崎県明るい社会づくり運動推進協議会」の宗教部門を解消し、新たに「長崎県宗教者懇話会」を発足させた。

世界連邦日本宗教委員会は長崎県宗教者懇話会の生みの親であると同時にその後、広島・長崎原爆殉難者慰霊祭に毎年、会の幹部、事務局員などを派遣し、共に慰霊と平和の祈りを捧げ、交友を保ちつづけている。またこれ以来、諸外国との交



▲第25回世界連邦平和促進全国宗教者長崎大会
大会準備委員会を務めた長崎県宗教者懇話会の会員
平成15(2003)年11月25日

流にも力を入れ、エジプト、カナダ、フランス、オーストラリアなどおよそ10ヶ国での宗教者平和会議を企画、長崎県宗教者懇話会のメンバーも参加している。その中で、毎年ハワイ・パールハーバーでの平和慰霊行事は今日まで続いている。ハワイ・アリゾナ記念館の歴代6名におよぶ館長も長崎を訪問。市民と共に平和の祈りを捧げた。

世界連邦日本宗教委員会には長崎県宗教者懇話会メンバーも参加しており、常任顧問に高見三明大司教、副会長に野下千年師、理事を小田義海師が務め、会員として下窄英知師も活動している。また、同委員会の下部組織に、青年会の国際的活動部門として日本国際文化協会が設置されており、常任理事に小田義海師、理事を野下千年師が務めている。



▲第35回世界連邦平和促進全国宗教者・信仰者東京大会(野下代表参加) 平成25(2013)年11月28日

真珠湾開戦慰霊式典での 野下千年代表のスピーチ

The Reverend Chitoshi Noshita: Prayer for Peace

私たち世界連邦日本宗教委員会は、この神聖なる第69回真珠湾の戦没者慰霊式典に、今年もまたご招待を頂き、平和の祈りを捧げさせて頂ける事に大変感謝致しております。そして今回、この新アリゾナビジターズセンターで開催される第69回目の平和祈念式典に参列させていただくことは私たちにとっても大変意義ある事でございます。

私たちが、初めてお参りさせていただいた29年前は、アリゾナメモリアルに焦点があてられておりましたが、この新アリゾナビジターズセンターには新たな一面が加えられました。それは、戦争によるおぞましい破壊という一面だけにとらわれるのではなく、その当時を生きた前向きな男女の生きることへの勇気と希望を今に伝えるべく、その人々の顔写真も展示されるそうです。

この場所は、太平洋で起きた全ての戦争を直に感じ取ることの出来る第一の場所として、その様子が力強く、かつ繊細に表現され、戦中、戦後、そしてこの式典に私たちが集う今日までの時の流れさえも体験できるそうです。この新アリゾナビジターズセンターは、今までのようなアリゾナメモリアルとしてだけでなく、全世界に平和を伝える教育の場としても重要な役割を果たすことでしょう。

長い歴史の中で、すべての戦争はその戦いを終わらせるために戦われ、その争いは今も絶えることがありません。それが、我々人類を悩ませ続けます。それでも世界平和のために私たちは祈ります。そしてそれはきっといつか叶えられることでしょう。私たちは希望を抱き祈ります。今も、そしてこれからも。

私たちが、日本の宗教者を代表し今日ここに集っているという事、そしてアメリカと日本は友好国であるという事実は、例え激しく戦った敵同士であっても良き友人になることができるという最



▲ハワイ平和祈念使節団 カメハメハ大王像の前で



▲ハワイ平和祈念使節団 ハワイ平等院で

も大切な教訓を私たちに与えているのではないのでしょうか。それは人類の未来を平和に導くという大きな希望です。

私たちは、英霊のために祈り、ここにおられる生存者の皆様、そしてご遺族の皆様にとって決して忘れることのできない苦しい思いをお慰めすると共に、犠牲になられた方々と、その忘れ難い過去を教訓として再認識するものであります。

祈りましょう。

世界が本当に平和になりすべての人々が幸せでありますように。この地球を一つの家とし、生きとし生けるものが共に生き、慈しみと愛と誠に充ちた明るい楽しい世の中になりますように。神仏の限りない御恵みのもとに真の世界平和実現の為に御役立てください。

世界連邦日本宗教委員会ハワイ平和祈念使節団



平和の祈り アッシジから比叡山へ

◀平成24(2012)年8月、京都で開かれた「比叡山宗教サミット25周年記念 世界宗教者平和の祈りの集い」のパンフレットより
 (宗懇代表の野下千年師が参加)

比叡山宗教サミット26周年 『世界平和祈りの集い』開催趣旨

諸宗教の対話と協力に力を注がれたローマ教皇ヨハネ・パウロ2世聖下の提唱により、1986年10月に世界の諸宗教指導者がイタリアの聖地アッシジに集い、それぞれの宗教儀礼で、世界平和を希求する祈りを捧げました。

この集いに参加した第253世天台座主山田恵諦猊下は、「アッシジの精神」を引き継ぎ、日本においても世界平和祈りの集いを執り行うことを世界の宗教者に提言いたしました。日本のさまざまな宗教者もそれぞれの立場で世界平和のための運動を展開しておりましたので、宗派を越えて賛同いただき、諸宗教指導者が主催者となり、1987年8月3日、4日の両日、比叡山山頂にて第1回「比叡山宗教サミット(世界宗教者平和の祈りの集い)」が開催され、世界の諸宗教代表者と共に世界の平和を祈ることができたのであります。

特に昨年は25周年という節目を迎え、世界の宗教指導者をお招きして「世界宗教者平和の祈りの集い」を開催することができました。

世界の平和を脅かすものとして、戦争や民族紛争、また核兵器の存在、さらには環境汚染、飢餓や人権抑圧などが指摘されてまいりましたが、この時の集いでは、東日本大震災の発生を受けて「自然災害の猛威と宗教者の役割」がテーマとされました。

その中で問われたのは「原子力発電に依存」することに代表される現代文明の在り方そのものでした。生命体を育てくれる地球を、人類はエゴによって破滅に追いやろうとしているかのようにも見えます。地球という「共同の船」に乗る私たちは、我欲を超えた叡智をもってこれらの問題に対処すべき時を迎えています。

私たちは「比叡山宗教サミット26周年『世界平和祈りの集い』」を開催するにあたり、平和とは何かを熟慮いたし、宗教が持つ使命と責務を再確認するものであります。

(比叡山宗教サミット26周年「世界平和祈りの集い」パンフレットより抜粋)



▲▼イタリア・アッシジにおける世界平和祈りの集いの一場面、下の写真は教皇ヨハネ・パウロ2世と日本から参加した宗教者代表
 昭和61(1986)年10月



被爆体験を共有する広島・長崎の 諸宗教者団体交流 広島・長崎宗教者平和会議

※広島・長崎宗教者平和会議は通常1泊2日の研修と交流が行われる



▲第21回広島・長崎宗教者平和会議、会議の様様 平成18(2006)年2月6日 長崎市・中町教会



▲第24回広島・長崎宗教者平和会議の参加者 平成21(2009)年2月12日 広島市・平和公園

お祝いのことば

長崎県宗教者懇話会の創立40周年、誠におめでとうございます。貴会の宗教、宗派を超えた活動には、長崎の文化を発信する市民グループとして敬服いたしております。

当会としても、少しでも支援させていただきたいと、毎年8月8日に行われる「原爆殉難者慰霊祭 平和の祈り」では、新聞やテレビを使った広報活動や、もっと市民が参加しやすくするために、昨年は式典の前に特別公演“能舞「地の力」”を企画するなど実施してまいりました。

今後も、貴会の益々のご発展をお祈りしますと共に、長崎ならではの平和と共生の文化発信に、当会も微力ながら協力させていただければと願っております。

当会の紹介

私たち市民グループ「アジェンダNOVAながさき」は、以下の趣旨により2004年に設立し、様々な活動を重ねてきました。

◆設立趣旨

風土的、歴史的に醸成されてきた異文化共存・諸宗教友好の街「長崎」は私たちの心のふるさとです。しかし「人の生命の尊厳、融和と絆、慈愛と道徳」などが薄らいでゆく現状を目の当りにして、私たちは現状を深く愁うものです。（注：当時、市長の銃撃、児童殺害など事件が続いていた）

今、私たちは隣人一人ひとりの内なる魂に関心を深め、相互理解に基づいた異文化交流や生き方の回復・再認識、新時代に相応しい平和活動の在り方、青少年に対する情操教育など、責任ある行動を通じて心のふるさと長崎の健全な精神復興を促したいと考えます。

会の名称は「アジェンダNOVAながさき～長崎の文化を考える会～」です。「AGENDA＝アジェンダ」は「取り組むべき課題」、「NOVA＝ノーヴァ」は「新しい」を意味し、何れもラテン語で長崎の歴史を漂わせることといたしました。

この新しい長崎を実現するべく、私たちは別掲

アジェンダNOVA ながさき



▲「ながさきクリスマス☆ページェント」
教会巡礼☆馬小屋さるく 平成25(2013)年12月24日
アジェンダNOVAホームページより

の事業・活動を行い、行政、自治会、企業等では行き届きにくい分野に挑み、他の文化団体や諸宗教との連携をも図りながら、知的・精神的創造イベントの創出に取り組みます。これらは日常生活に根ざした真の国際文化都市長崎の実現に寄与するものであり、その新しいアジェンダを世界に発信することも視野に入れていきます。

◆活動実績

- ①教会を使ったコンサートやチャリティーイベント 15回
- ②長崎の宗教と文化を学ぶ「市民セナリヨ」3回
- ③本物のクリスマスを発信する「ながさきクリスマス☆ページェント」'05年から10回、「教会巡礼・馬小屋さるく」'05年から11回
- ④「長崎の教会群」の世界遺産支援活動'06年から5回
- ⑤平和を告げる「長崎の鐘を鳴奏会」'08年から7回
- ⑥その他、長崎県宗教者懇話会とも8・8祭典とも呼ばれる「原爆殉難者慰霊祭と平和の祈り」を始めとして連携を取り、市民とのつなぎ役を果たしてきました。

◆メンバー構成

会社員、自営業者、宗教者、政治家、マスコミ関係者と様々な職種を持つ長崎が大好きな人たちです。（正会員20名、協力会員30名、賛助会員3名）

アジェンダNOVAながさき 里 重光

《アジェンダ NOVA ながさき企画》
長崎さるく博'06 タイアップイベント
市民セナリヨ2006
 ～長崎の宗教と文化～

長崎さるく博'06 タイアップイベントとして、「アジェンダNOVAながさき」が企画した「市民セナリヨ2006」(ミニさるく、講話、音楽をセットにしたイベント)に、長崎県宗教者懇話会も協力団体として協力した。このイベントは、平成18(2006)年4月29日～10月21日にかけて、7回にわたって行われ、講師・コーディネーターとしても、長崎県宗教者懇話会会員が活躍した。

／ 講話概要 ／

- ◆第1回／4月29日
ローマ教皇庁と長崎
 講師：高見三明(カトリック長崎大司教区 教区長)
- ◆第2回／5月20日
「キリシタン世紀」のキリスト教発展
 講師：デ・ルカ・レンゾ神父(二十六聖人記念館館長)
- ◆第3回／6月17日
殉教と潜伏／浦上四番崩れと近代日本の夜明け
 講師：片岡千鶴子(長崎純心大学学長)
- ◆第4回／7月15日
禁教令と神社
 講師：大神照彦(諏訪神社宮司)
- ◆第5回／8月19日
長崎の寺々／これからの長崎と宗教
 講師：三浦達美(浄土真宗本願寺派 大光寺住職)
- ◆第6回／9月16日
長崎の歴史に見る文化交流
 講師：ブライアン・バークガフニ
 (アジェンダNOVAながさき特別顧問)
- ◆第7回／10月21日
これからの日本と世界における長崎の役割
 コーディネーター：野下千年
 (カトリック中町教会主任司祭)
 パネリスト：大神照彦宮司／三浦達美住職
 越中哲也氏

※本頁は、「アジェンダNOVA」ホームページより
 転載、抜粋させていただき作成しました。



▲「市民セナリヨ～長崎の宗教と文化～」ポスター



▲第5回 ミニさるく／大光寺 三浦ご住職とともに経を読んだり、珍しい古写真等を拝見



▲第3回 音楽のタベ／生月寺部地区の皆さんにうたオラショをご披露いただき、長崎カトリック合唱団によるグレゴリオ聖歌との比較も検証された

深まる友好と交流

平成22(2010)年10月、長崎からトルコ平和使節団がトルコ共和国を訪問した。使節団には長崎県宗教者懇話会をはじめ、被爆手帳友の会・高校生10,001人署名メンバーなどが参加した。

この翌年の第39回原爆殉難者慰霊祭にトルコからイスラム指導者らが初めて参加した。この時、原爆資料館視察・長崎市長表敬・慰霊祭前夜の懇親会での交流があり、慰霊祭当日には浦上天主堂・妙行寺・諏訪神社・立正佼成会長崎教会の各宗教施設の表敬視察も行った。

交流は現在も続いており、慰霊祭参加をはじめとするトルコからの訪問や、長崎からトルコ・イスラムへの表敬訪問を行うなど、友好を深めている。

トルコ共和国・イスラームとの交流



宗教の壁超えて平和交流

来月長崎でトルコ・イスラム教指導者ら招き

宗教や宗派の壁を超えて平和を祈る県宗教者懇話会(会長 野下千年・カトリック諸宗教対話委員会委員長)が11日、長崎市の田上富久市長を訪問し、8月にトルコのイスラム教指導者らを招き平和交流を実施すると伝えた。同懇話会は原爆殉難者慰霊祭を同8日に

原爆落下中心碑で毎年開いており、イスラム教指導者が参加するのは開催39回目と初という。懇話会によると、昨年10月にトルコのイスタンブールで開催された長崎原爆写真展で、懇話会のメンバーが現地のイスラム教指導者らと懇談したのがきっかけ

県の懇話会

け。宗派を超えて祈りを捧げていることに感銘を受け、ともに平和への祈りを捧げたいと平和交流が実現した。

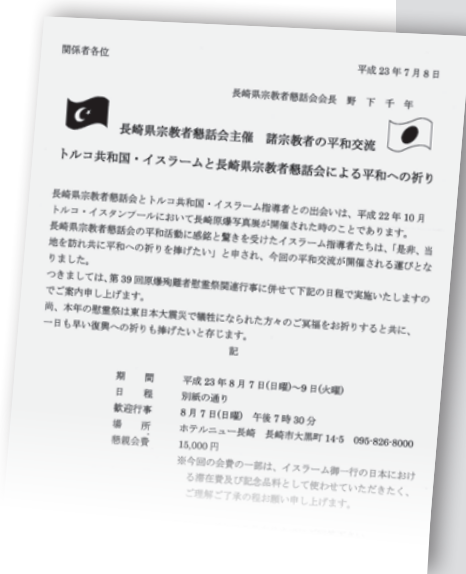
トルコのイスラム教指導者ら8人は8月7日から長崎市を訪問。9日の平和祈念式典にも出席する。野下会長は「どの宗教も平和を切に願う気持ちは同じ。この平和交流が宗教者たちだけではなく、より広がりのあるものになる一歩になれば」と話した。

▶朝日新聞(長崎)平成23(2011)年7月12日

※関連する内容

「第二章 平和巡拝・慰霊の旅：トルコ・イスラームへの巡礼・平和交流の旅」／「第六章 報道各社の掲載記録：⑱毎日新聞 平成23(2011)年8月9日」

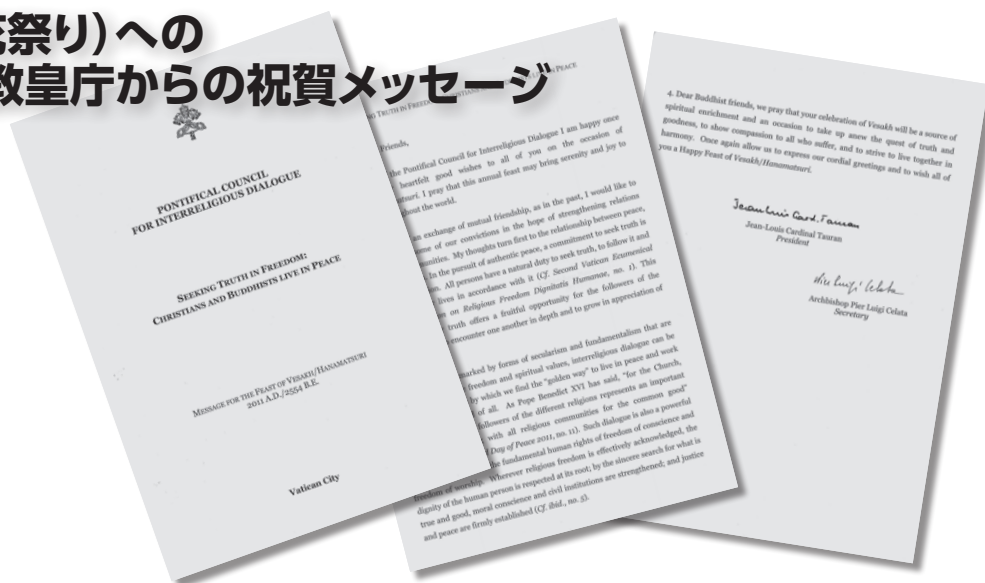
▶懇親会(長崎県宗教者懇話会主催、諸宗教者の平和交流・トルコ共和国・イスラームと長崎県宗教者懇話会による平和の祈り)の様相と「交流会招待状」



第五章

メッセージ・書簡等

灌仏会(花祭り)への バチカン教皇庁からの祝賀メッセージ



訳文

教皇庁諸宗教対話評議会

自由に真理を求めて平和に生きるキリスト教信奉者と仏教信奉者

花祭りメッセージ

西暦2011年／仏歴2554年 バチカン市国

自由に真理を求めて一平和に生きるキリスト教信奉者と仏教信奉者

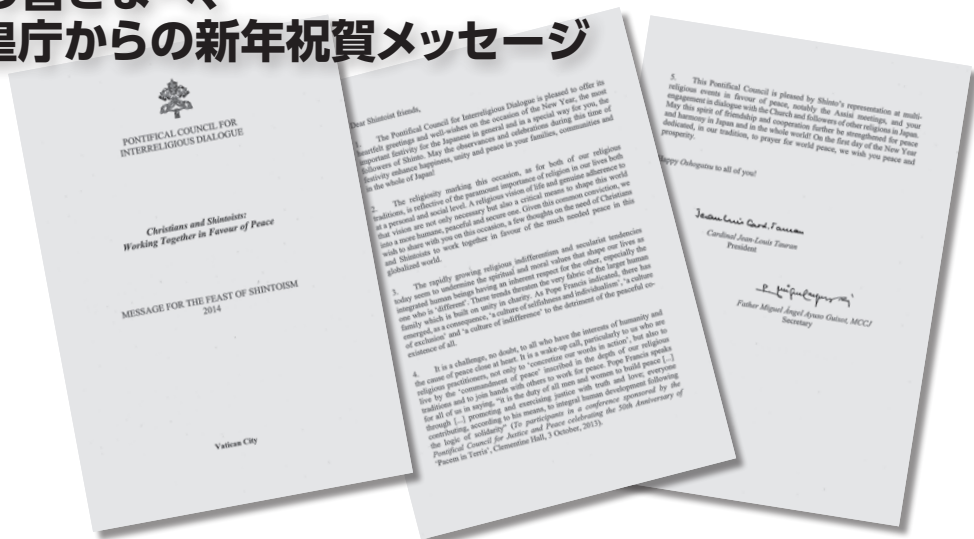
敬愛する仏教信奉者である友人の皆様へ

1. 教皇庁諸宗教対話評議会から灌仏会(花祭り)を祝う皆様に、今年も、心から慶びのご挨拶を申し上げます。恒例のこの祭が全世界の仏教信奉者である皆様に平安と喜びをもたらしますようにお祈り申し上げます。
2. 従前同様に、双方の団体のつながりが深まることを願い、わたくしの考えを述べさせていただきます。まず、平和と真理と自由の関係について思いを馳せます。
真正な平和を追求するとき、真理の探求が必要条件になります。すべての人は、真理を追求し、真理に服し、真理に自由に従って生きる本分と義務を負っています。
(第二バチカン公会議「信教の自由に関する宣言」1参照)。この真理探求の努力は諸宗教信奉者間の相互理解を深め、相互貢献について積極的評価を高める機縁になります。
3. 真の自由と精神的価値を阻害する世俗主義と原理主義が目立つ現代世界において、諸宗教対話はすべての人びとの幸せを求めて共に生き共に働く「王道」を発見するための対案になるとは考えられないでしょうか。教皇ベネディクト十六世は、「教会にとって異なる宗教信奉者間の対話は、共通の善を求める人々に重要な協力手段を提示する」(「2011年世界平和の日メッセージ」11)と述べています。このような対話は、良心の自由と信教の自由に関する基本的人権を尊重させる強力な刺激にもなります。信教の自由が認められると、真実、善、良心が何であるかを探求することによって、また市民社会制度を強化し、正義と平和を確立することによって、人間の尊厳も基本的に尊重されることとなります(同上 5)。
4. 敬愛する友人である仏教信奉者の皆様、灌仏会が、精神的豊穡の源泉となり、また苦しむすべての人々と苦しみをともにし、たがいに和を生きる努力をしながら真理と善を求める心を新たに作る機会となりますように祈ります。あらためてもう一度、灌仏会を祝賀申し上げます。

教皇庁諸宗教対話評議会会長 ジャン・ルイ・トーラン枢機卿

事務局長 ピエール・ルイジ・チェラータ大司教

神道と日本の皆さまへ、 バチカン教皇庁からの新年祝賀メッセージ



訳文

教皇庁諸宗教対話評議会

「平和のために協力するキリスト教と神道」

2014年カトリック教会から神道への新年のご挨拶
親愛なる神道の皆様

1. 日本の皆様、とりわけ神道を信奉する皆様にとって、もっとも大切な季節である新年に際し、教皇庁諸宗教対話評議会は心からの御挨拶とお祝いを申し上げます。この祝日に行われる行事や祝事を通して、皆様の家庭や共同体、そして日本全国における幸福と一致と平和が深まりますように。

2. 新年は、神道にとっても、キリスト教にとっても、宗教的意味合いのある時です。このことは、宗教がわたしたちの個人的生活にとっても、社会的生活にとっても、最も重要なことを表しています。いのちについての宗教的な考えとそれを正しく固持することは、単に必要であるだけでなく、世界をより人間的で、平和で安全なものとするために不可欠なことです。こうした共通の信念のもとに、当評議会は、グローバル化された世界で希求される平和に向けてキリスト教と神道の信徒が協力する必要性について、いくつかの考えを皆様とこの機会に分ち合いたいと思います。

3. 急速に深刻化しつつある宗教への無関心と世俗化により、霊的、道徳的価値観が損なわれているように思われます。この価値観は、わたしたちに協調性をもたらし、相手を、特に自分とは「異なる」相手を尊重できるようにするものです。この無関心と世俗化の傾向は、愛のうちに一つに結ばれている人類家族の根幹を脅かしています。教皇フランシスコが指摘しているように、その結果として「自己中心的で個人主

義的な文化」「排除の文化」「無関心の文化」が現れ、すべての人が平和的に共存するのを阻んでいます。

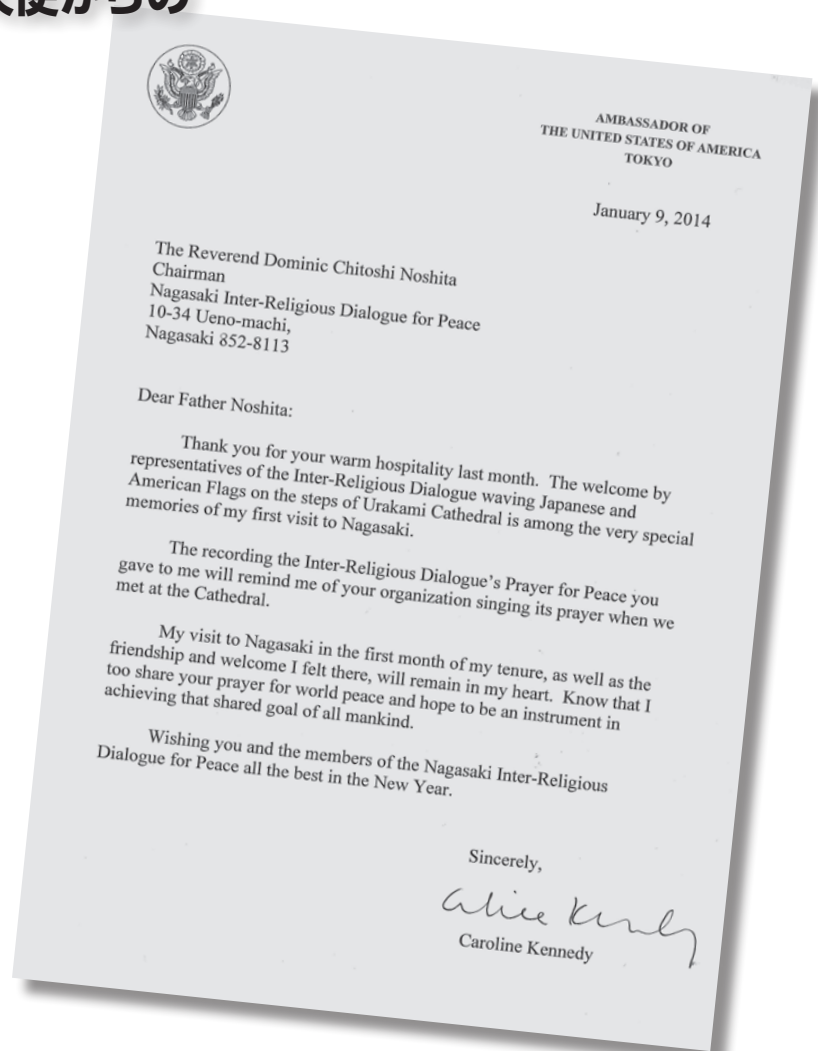
4. このことは、まぎれもなく、心から人類のことを考え、平和を願うすべての人々の課題となっています。とりわけ宗教者であるわたしたちにとって、それは目覚めを促す呼びかけです。わたしたちは、言葉を実行に移すだけでなく、自らの宗教伝承の奥深くに刻まれた「平和のおきて」に従って生活し、他者と協力して平和のために働くよう呼びかけられています。教皇フランシスコはすべての人に次のように語りかけています。「真理と愛をもって正義を促し、実行することによって平和を構築することは、すべての人の責務です。あらゆる人が、自分の力量に応じて、連帯の精神をもって人類の統合的發展に貢献すべきです」(教皇庁正義と平和評議会による回勅『地上の平和』50周年記念会議参加者へのあいさつ、クレメンタイン・ホール、2013年10月3日)。

5. 当評議会は、アッシジの集いをはじめとする平和のための諸宗教者の集いに神道の代表者が参加していること、また皆様が教会との対話や日本の他の宗教との対話を進めていることを歓迎し、喜びしております。このような友愛と協力の精神が、日本と全世界の平和と調和に向けてさらに強められますように。キリスト教では世界平和のために捧げられるこの元旦にあたって、皆様の上に、平和とご多幸をお祈り申し上げます。

お正月おめでとうございます。

教皇庁諸宗教対話評議会議長
ジャン・ルイ・トーラン枢機卿
同次官 ミゲル・アンヘル・アユソ・ギクソット神父

ケネディー米大使からの 感謝状



訳文

東京 アメリカ合衆国大使館 2014年1月9日
長崎県宗教者懇話会 会長 野下千年 様

先月の皆様の温かいおもてなしに感謝申し上げます。

浦上大聖堂の玄関階段で、日米の国旗を振りながらの宗教者懇話会代表の方々の歓迎は、私の最初の長崎訪問のなかで、とりわけ印象深い思い出です。

あなたが私にくださった宗教者懇話の平和の祈りのCDは、大聖堂で、その祈りを歌ってくださったあなた方の会の思い出となるでしょう。

私の任期最初の月の長崎訪問、および私がそこで感じた友好と歓迎とは、私の心に残ることでしょう。

あなた方の平和の祈りと、全人類の目標を共有するための行動における道具となりたいとの希望を、私もまた、共に分かち合っているということをご承知いただきたいのです。

敬具

キャロライン・ケネディ

トルコ・イスタンブールの イスラム教指導者たちへの招待状

Very Reverend Director

The Cross-Cultural Center, ISTANBUL

Nagasaki March 24, 2012

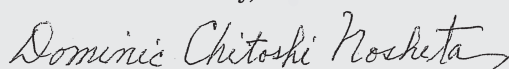
LETTER OF INVITATION

We are honored to invite the delegate(s) you are sending from Turkey to attend the Atom Bomb Memorial Ceremony which is sponsored by our Nagasaki Inter-Religious Dialogue for Peace.

The Memorial Ceremony will take place here in Nagasaki on August 8th 2012. We will provide for the delegation's physical needs and all accommodations while they are our guests here in Japan August 7th to August 9th.

We pray for your delegation's safe arrival and we are looking forward to gathering together to pray for World Peace.

Sincerely,



Dominc Chitoshi Noshita, Chairman

Nagasaki Inter - Religious Dialogue for

World Peace

平和のための慰霊祭「原爆殉難者慰霊祭」に出席していただくために、あなた方をトルコから招待できることを光栄に思っています。

慰霊祭は8月8日に長崎で行われます。8月7日から8月9日の長崎滞在中、あなた方代表団の必要な経費、宿泊先などをすべて保障します。

私たちは、あなた方代表団の安全な到着を祈り、一緒に世界の平和を祈れることを心から楽しみにしています。(要約文)

被爆70年の声明— 第30回広島・長崎宗教者平和会議

被爆70年の声明

広島・長崎宗教者平和会議

作ってはならない兵器が作られ、使われてはならない兵器が広島長崎で使われ、21万という人間のいのちが奪われて、放射能の恐怖が残りました。二つの都市は70年間この苦しみを背負いながら、犠牲者の冥福を祈り、核兵器が二度と使われないことを願い、この兵器は廃棄するしかないことを語り続けてきました。

されど未だ1万6千発の核兵器が存在し、その恐怖の牙を剥き出しにしていることを思う時、70年という歲月の中で、核兵器のない世界を目指そうという声が届かなかったことを犠牲者に告げなければなりません。

人間に叡智があり、善を求める心があることを信じる私たち広島長崎の宗教者は、悲劇が二度と起こらないことを願い、平和を求めて世界中の人々と共に祈りたいと思います。

私たちは広島、長崎に投下された原子爆弾や、幾多の核実験によって、あまりに多くのいのちが奪われ傷つけられたことを深く悲しみ、これらの人々と遺族の心が安らかであることを祈ります。

次に、世界中の宗教者に呼びかけます。

あらゆる宗教は平和を説き、暴力や武力による問題の解決を望みません。宗教は対立を生み出すものではないはずです。平和のために、戦争や紛争そしてテロのない世界をめざして共に祈りましょう。

最後に、世界中の人々に呼びかけます。

核兵器はいのちを滅ぼす兵器です。多くの人間に死をもたらすだけでなく、放射能の恐怖をもたらすことを私たち広島、長崎の人間は知っています。核兵器はいりません。この世界から核兵器をなくそうと一緒に声をあげ、平和のために祈り行動しましょう。

第30回広島・長崎宗教者平和会議

2015年2月12日～13日
広島カトリック会館と三瀧寺にて開催

広島・長崎宗教者平和会議は、人類最初の被爆地で祈り続ける広島県宗教連盟と長崎県宗教者懇話会に属する宗教者が、「平和の原点はヒロシマ・ナガサキ」の課題のもと被爆都市の絆を深め、宗教の垣根を越えて協力し、すべての人々の願いである平和への道を模索し、新しい秩序づくりを構築することが宗教者の使命であることを確認し、第1回会議を1986年長崎市で開催しました。以来30年間、毎年交互に会議を主催し、両市の宗教者があらゆる壁を越えて懇談し、平和への想いを深めてきました。

30回目に当たる本年は、広島カトリック会館と三瀧寺を会場に、1981年2月25日教皇ヨハネ・パウロ二世が広島平和記念公園の原爆慰霊碑の前で発せられた「戦争は人間のしわざです。戦争は人間の生命の破壊です。戦争は死です。」で始まる『広島平和アピール』を深く読みました。この学びを通して、「核兵器と人類は共存できない」ことを再確認し、原爆死没者や被爆者の苦しみに寄り添う宗教者として、宗教を超えて生命(いのち)の尊さと、人類を破滅へと向かわせる核兵器の非人道性を訴え、平和と和解を築くために「被爆都市の宗教者のなすべきこと」について協議しました。そして上記の『被爆70年の声明』をまとめ、世界中の人々と宗教者に「平和」への祈りを呼びかけることに致しました。それと共に核兵器を保有する国の指導者に対して、ヒロシマ・ナガサキを訪れ、被爆者の声に耳を傾けて被爆の実相を深く認識してもらうために、両都市への訪問を促すことに致しました。